

## 第96回人口・社会統計部会議事概要

1 日 時 平成31年2月1日（金）10:00～11:40

2 場 所 総務省第2庁舎6階特別会議室

3 出席者

## 【委員】

白波瀬 佐和子（部会長）、河井啓希、嶋崎 尚子、永瀬 伸子

## 【審議協力者（各省等）】

財務省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省、国土交通省、東京都、神奈川県

## 【調査実施者】

文部科学省総合教育政策局調査企画課：萬谷調査企画課長

## 【事務局（総務省）】

横山大臣官房審議官

統計委員会担当室：櫻川室長、肥後次長、吉野政策企画調査官

政策統括官(統計基準担当)付統計審査官室：澤村統計審査官、宮内調査官ほか

4 議 題 学校基本調査の変更について

5 概 要

- 1月30日開催の第131回統計委員会において諮問された学校基本調査の変更について、統計委員会における委員からの意見を共有した後、審査メモに沿って審議が行われた。
- 審査メモの「報告を求める事項の変更」、「集計事項の変更」、「平成26年7月の統計委員会答申における今後の課題及び公的統計の整備に関する基本的な計画（平成30年3月6日閣議決定）の課題への対応状況」について審議を行った結果、調査実施者において整理の上、次回部会において改めて審議することとされた一部の事項を除き、変更内容については、おおむね適当と整理された。

委員等からの主な意見等は、以下のとおり。

（1）報告を求める事項の変更

- ・ 休職等理由区分として追加する「介護休業」については、「介護休暇」等と混同する場合も多いと思われることから、報告者に紛れが生じないように、注記する必要がある。
  - 調査票は、報告者のことを考えて作成されるべきものであることから、注記するなど所要の対応を図ってほしい。
  - 例年の都道府県統計主管課を対象とした説明会等において、御意見・御要望を把握し、省内で検討・調整の上、手引き等に反映している。

## (2) 集計事項の変更

- ・ 本務者のうち休職等教員数を男女別に把握することには賛成であるが、ジェンダー統計の充実の観点から、男女別に把握しているものの集計が行われていない項目についても、集計の充実を図っていただきたい。
  - ・ 休職等理由区分に追加する「介護休業」については、これまで「休職」の「その他」に掲示されていたという理解でよい。
- 「休職」と「休業」は定義が異なり、これまで「休職」とは別に「育児休業」を設けて把握していたが、同様に、今回から新たに「介護休業」を把握するものである。
- 表章に当たっては、統計利用者に紛れが生じないように、「休職」と「休業」の定義の違いが分かるように脚注で丁寧に記載すべきである。
- 教職員数の中には、休職者・休業者も含まれることについても、脚注で注記すべきである。
- 御指摘を踏まえて、対応したい。

## (3) 統計委員会答申における今後の課題及び第Ⅲ期基本計画の課題への対応状況

- ・ 現行のオンライン調査システムは、利用率が向上しているが、データが重く、利用しづらいことから、新たなシステムの構築に当たっては、その改善を図ってほしい。
- ・ 平成26年の統計委員会答申で指摘された、厚生労働省との幼保連携型認定こども園に係る調査事項の重複是正については、具体的な対応を図っているのか。
  - 厚生労働省とは課題認識は共有しているが、具体的な協議までは踏み込んでいない。本調査と厚生労働省の社会福祉施設等調査との重複是正については、平成26年の統計委員会答申においても、両調査の時系列データが一定程度蓄積される平成32年度（2020年度）調査を目途として実施する必要があるとされている。今般、時系列データが整ってきたことから、速やかに協議に入りたいと考えている。
- これまで協議の場も設けていないのは、対応として遅い。
- ・ 調査事項の変更は、他府省でも共通的に起こる問題であるが、他府省と比べても対応が非常に遅い。システムをどう構築するか、また、システム開発業者の選定などについて、各府省間で情報共有する機会はあるのか。
  - 情報共有の場は現状では設けられていないため、今年度実施しているシステムに関する事前調査の中で、各省や関係機関等へのヒアリングを行いながら、現行の調査統計システムにどのような問題があるのか、どのような方向を目指していくことが望ましいのかについて、知見を蓄積している状況である。
- 現行システムについて、これだけ汎用性に欠ける状況にあって、既に問題点は明確であり、早急に対応すべきである。
- コンピュータ技術も進展している中で、集計にこれだけ多額の予算を要するというのは理解に苦しむ。時代にあったシステムを早急に作成すべきである。

- システムの発展の早い中、3年後のシステムを作るのは逆に設計が難しいのではないかと。
- 現行システムの維持を前提とすると今後の発展性がないが、事前調査では、どこを対象とし、何を調査しているのかを具体的に示してほしい。  
また、事前調査の結果と仕様書作成は重複した作業になるのではないかと。
- 事前調査の内容について整理の上、次回部会で提示したい。
- ・ 現行システムについて、具体的にどこに問題があり、なぜ時間がかかるのか、今後、どのように改善するのか、その改善が時間と金額のコストダウンにどれだけ寄与するのかが分かる資料を提示してほしい。
  - 資料を作成し、次回部会で提示したい。
  - 他省の対応と容易に比較される状況にあることを省内でも十分に共有・認識の上、次回部会までにしっかり検討してほしい。

## 6 次回予定

次回部会は、平成31年2月13日（水）13時から総務省第2庁舎3階第一会議室において開催することとされた。

また、本日の審議結果については、2月に開催予定の第132回統計委員会において、白波瀬部会長から報告することとされた。

（以 上）